

「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画（案）」に対する意見提出手続（パブリックコメント）
の結果と御意見に対する宮城県の考え方

令和6年3月29日

「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画（案）」について、令和6年2月8日から令和6年3月8日の日程により、ホームページ等を通じ県民の皆様の御意見等を募集した結果、1件の貴重な御意見をいただきました。

いただきました御意見等に対する宮城県の考え方につきまして、以下のとおりです。

御意見の内容（要旨）	宮城県の考え方
<p>【コンテナターミナルについて】</p> <p>(1)高砂コンテナターミナルにおけるカーボンニュートラルに向けては、従来のストラドルキャリア方式か若しくはテナー（トランスファークレーン）方式への転換となるのかにより、現場の対応は大きく変わる。</p> <p>①ストラドルキャリア方式での課題 現在ハイブリッド型が市販されているが、今後水素対応型ストラドルキャリア等、新たな低・脱炭素型荷役機械が市販されなければ脱炭素化の対応は困難である。</p> <p>②テナー（トランスファークレーン）方式化への課題 転換にあたっては、導入工事期間の代替地の確保、ターミナル舗装の改良、システムの改修等が必要となる。</p> <p>(2)AI等新技術導入による効率的なコンテナ搬出入や蔵置などの対策により、トレーラーの待機時間を削減することが脱炭素化につながるのではないかと。</p>	<p>(1)計画（案）では、今後の荷役方式転換の可能性を見据え、ストラドルキャリア等の脱炭素燃料化及びテナーの導入の両方を記載している。 今後は、技術進展の状況、コンテナ取扱貨物量や港湾運送事業者の導入意向等を踏まえ、方針が決定した段階で随時計画に反映していく。</p> <p>(2)国では「CNP 認証（コンテナターミナル）」制度の創設を検討しており、当制度によりコンテナ搬出入の効率化を含む脱炭素化に向けた取り組みを推進している。 本計画（案）においても承認の取得を位置付けており、国内他港で実施されている実証の状況等を踏まえ、仙台塩釜港での導入に向けて検討していく。</p>
<p>【コンテナターミナル以外について】</p> <p>(3)荷役機械の電動化の課題として「港湾地区への電源設備の整備」「稼働時間が大幅に短い」「取り扱える荷重が不足している」などが挙げられる。この問題が解決されないと代替は不可である。また、既存機械と比較し高価であることも課題である。</p>	<p>(3)計画（案）では、中長期の取組として荷役機械の電化を記載しているが、ご意見のとおり、現状は港湾荷役に対応する製品は限定されている。 今後は、技術進展の状況を注視しながら、仙台塩釜港における取組を検討していく。</p>
<p>【その他】</p> <p>(4)共通して大規模な設備投資が必要となることから、補助金が必須である。</p>	<p>(4)協議会での意見を踏まえ、国に対して現在の補助制度の拡充等、要望を行っていく。</p>